紙藍会便り

2011年　第6号
組合員社数：24社
発行月：2011年12月

目次

1. 巻頭雑句『知らんかい』
2. 台湾視察レポート
3. 内外格差逆転
4. 六地区懇談会 in 東京
5. アンケートデータ

巻頭雑句『知らんかい』

第5回　『書く』という事

今回、「紙藍会便り」の巻頭をまかされたはいいが、さて何を書こう。題材探しに本を読んだりテレビ・ラジオを聴いたり「材料」となるものはたくさんあるがでは何を？何でもいいから書いてと言う事なので「書く」について。

小学生の時などは、本を読んでとか遠足・工場見学など何かにつけて感想文を書かされたというか書いた記憶がある。意外とそういうのは得意だったきがする。「テーマ」があったから書きやすかったのかもしれない。小学生の時の修学旅行の思い出という感想文なんかは原稿用紙２０ページからなる大作だった。出来上がったときの達成感というか充実感を今でも覚えている。読み返してみると「まあ、小学生だな」と。

大人というか社会人になってからは、そういう機会が減ったので、今回久しぶりでテーマもないし頭が痛い。仕事上書類を書いたりなどというのはあるが、ほとんどがパソコンに打ち込んで文字変換してプリントして。そういう意味では字を書くことも減ってきているのかなと思う。漢字にしても読めるけど書けないというのも多々あるし、それだけパソコンなり携帯電話に頼っている影響なのだな。

「鉛筆握って、書く」手も使うし頭も使う。老化防止にも良いと聞くし「書く」大事なことだなと思う。

最後に、はやく「婚姻届」なるものをかいてみたいな。

多田　日出男

9月　台湾視察レポート

今回の視察は、台湾の大手製紙メーカーである正隆紙業后里工場と番線の製造をおこなっている金樹玉工業を見学した。

后里工場の最新鋭マシンのある１０号機建屋内は、巨大な抄紙機で埋め尽くされていたが、通路は広々とし明るく綺麗で、板紙メーカー特有の臭いも少なかった。そして、すべて電子制御で管理され、倉庫の管理から配送まで全てオートメーション化されていた。

また、建屋外には最新鋭の3号ボイラーが建設中で、これは石炭の他に泥や使用済みのタイヤなども燃料として使用でき、余ったエネルギーは今後売電する計画もあるそうだ。

金樹玉工業では、台湾国内の番線は価格競争が激しく、国内販売分についてはスクラップ等を主な原料として製造しているが、日本向けの番線は品質の良い原料を使っているとの話を聞いた。

今回も前回のベトナム視察に続き、また一つ貴重な体験をすることができた。

正隆紙業前にて

10月　内外格差逆転

２０１１年１０月１日より国内製紙メーカーにおいて段ボール価格が2円上昇した。海外市況と比べ価格差が大きく出ている為の値上げであったが、１０月半ば中国国慶節を過ぎると段ボール海外価格は４０$近くの暴落となった。ヨーロッパ古紙の投売りが原因の一つであるといわれているが、二つの価格変動により段ボール価格はリーマンショック後以来約2年ぶりとなる国内価格が海外価格より高い時期となった。

今後どのように価格が動いていくのか予想は難しく、情勢を注視していきたい。

11月　六地区懇談会 in 東京

２０１１年11月10日に東京・浅草ビューホテルにて六地区懇談会がおこなわれた。今回より四国製紙原料直納商工組合が独立して参加をおこなう初の『六地区』懇談会となる。

市況に大きな変化のあった直後での懇談会開催という事もあり情報交換や質問など盛んにおこなわれた。特別な議題として、資源抜き取り問題と対策についてが話された。罰則条例等が急速に浸透してきている地区もあれば、条例化の動きもなく打つ手が無い状態の地区もあり大きな差のある議題であった。組織的な資源泥棒を放置するわけにはいかず、今後も対策を考えていく必要がある問題である。

懇談会様子

7月・8月・9月　バラ物数量対前月・前年推移データ　（平均値記載）

(単位%)	段ボール			新聞			雑誌		
	7月	8月	9月	7月	8月	9月	7月	8月	9月
対前月	103.12	98.44	94.44	107.47	94.89	99.11	105.65	96.22	100.94
対前年	99.77	98.64	97.07	95.29	95.72	97.67	97.71	99.61	97.94

詳細なアンケートデータは紙藍会定例会時に配布してます。

発行：九州製紙原料直納商工組合紙藍会　住所：福岡県福岡市博多区博多駅前 3-27-24　博多タナカビル 8F